

<全体分析>

試験時間 60分

解答形式

マーク式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (**易化**・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

解答数は、昨年度と変わらず50問。空欄補充11問、単答式15問、正誤18問、年代整序5問に加え、革命に関する資料を用いた組合せ問題が1問出題された。正誤判定の選択肢は昨年度以来5択から4択となっている。難易度は昨年度と比べると標準的な問題が増加したため、易化したといえよう。

出題の特徴

語群は例年通り五十音順となっている。例年、戦後史・文化史から多く出題される傾向がある。

その他トピックス

例年、空欄補充・単答式・正誤・年代整序問題が出題されるなど、大枠として出題形式は変わらないが、問題数の比率や内容は年度によってばらつきがみられる。また、昨年度と同様に冷戦期から2000年以降の出来事まで現代史に関する出題がみられた。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	選択	冷戦期における東西陣営の対立と緊張緩和	(5)(6)偵察機撃墜事件(7)(8)ヘルシンキはやや難だが、慶大法学部受験者ならば覚えておきたい。(11)(12)の国家安全保障法は難。国防総省の名称が生まれたのは1949年だが、その起源は国家安全保障法である。(15)(16)自由民主党の結成は1955年。(17)(18)ソ連軍は介入していない。またゴムウカは一定の自由化を約束して事態を収拾したが、その後反動化へ向かった。(19)(20)第2次戦略兵器制限交渉は、調印されたもののソ連のアフガニスタン侵攻でアメリカが批准を拒否した。(23)(24)は中ソ対立を想起してアルバニアを導きたい。	標準
II	選択	古代における格差・不平等・差別	(33)(34)[01]イタリア語ではなくポルトガル語。[04]同職ギルドは親方層のみが参加し、職人は組合員にはなれなかった。(35)(36)[01]参加・発言は成年男性市民のみに限られた。[03]選挙ではなく抽選。[04]告発することはできた。(39)(40)「列柱の上部に複雑な装飾」からギリシア後期の建築様式であるコリント式と判断したい。(41)(42)[03]コンスルの決定にも拒否権を有した。(51)(52)『教会史』を著したエウセビオスは神龍帝理念でも知られるキリスト教思想家。	標準

III	選択	20世紀以降の「革命」といわれる政治社会変動	資料Aはイラク革命(1958)、Bはオレンジ革命(2004)、Cはイラン革命(1979)、Dはロシア革命(1917)、Eは白色革命(1963)、Fはメキシコ革命初期(1911)、Gはハンガリー革命(1918~19)。(53)(54)[02]はサダム=フセイン政権のことであり、シーア派ではなくスンナ派。(55)(56)資料はウクライナのユシチェンコ大統領の就任演説。ウクライナのオレンジ革命(2004)やグルジアのバラ革命(2003~04)とキルギスのチューリップ革命(2005)は一部の教科書に記述はあるが難。(61)(62)はシリアを想起するのは難。(65)(66)正解は[03]としたが、[01]パフレヴィー朝は連合側の一員としてドイツに宣戦布告したことから正しいと判断することも可能。[04]は化学兵器ではなく核。(69)(70)資料と設問を総合してハンガリーでの出来事であると判断したいが、クン=ベラは難。	やや難
IV	選択	アルメニア人の歴史	(77)(78)のネロや(79)(80)のマケドニア(朝)は時期から判断したい。(83)(84)も時期からエカチェリーナ2世時のロシアを想起してクリム=ハン国を導きたい。(95)(96)スラヴ民族会議が開かれたのはモラヴィアではなくベーメン(ボヘミア)のプラハ。(97)(98)古い頃に(f)ウラービー運動(1881~82)→(c)タバコ=ボイコット運動(1891~92)→(b)フィリピン革命(1896~1902)→(e)維新会の結成(1904)→(a)ベンガル分割令の撤回(1911)→(d)チベット独立の布告(1913)となるが、正確な年代をおさえていなければ正解を導けないため難。(99)(100)15共和国からなるソ連の解体こともない、バルト3国・グルジア(ジョージア)を除く11共和国からなる独立国家共同体が創設されたが、グルジア(ジョージア)は、のちに参加した。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

慶大法学部の入試問題では、戦後史・文化史・中南米史などがよく扱われ、今年度もそのような傾向が見られ、特に現代史からの出題が目立った。普通の入試問題ではあまり見られない、いわゆる難問も出題される。昨年度のように実教出版・東京書籍・帝国書院・山川新世界史など、一部の教科書のみに見られる微細な事項に依拠した設問が目立っていたが、今年度は日常の受験生の学習に適した入試問題であったといえよう。対策としては、まず世界史の全範囲を早めに終わらせること。過去問研究に時間を割き、そのうえで重点をおくべき第二次世界大戦後の東西対立などに関する丁寧な学習を心がけたい。難問については、消去法も大きな武器となるだろう。